

2020年3月23日

**HSBC 投信、不確実性が増す金融市場の下落局面でも強さを発揮する
「HSBC オルタナティブ・バランス・ファンド [愛称：マルチアシスト]」を
日本の個人投資家向けに設定**

HSBC 投信株式会社は、不確実性が増す金融市場の下落局面でも強さを発揮する投資信託、「HSBC オルタナティブ・バランス・ファンド [愛称：マルチアシスト]」（以下、「当ファンド」と言います。）を3月24日に設定することを発表しました。当ファンドは、3月24日から三菱UFJモルガン・スタンレー証券にて販売が開始されます。

世界の金融市場は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により混乱が生じ、不確実性が増しています。このような環境における投資判断は非常に困難であり、世界的にリスクオフの状況が続いています。また、リーマンショック後の世界金融危機の際には、株式などのリスク資産のみならず国債などの安全資産も同時に売られたことなどにより、様々な資産に投資を行う多くのバランス型ファンドの基準価額も下落し、国際分散投資に対する不信感が高まりました。

当ファンドは、世界の株式、債券、通貨に分散投資を行うバランス型の投資信託ですが、従来型のバランス型ファンドと大きく異なり、市場収益特性（スタイルファクター）を投資手法に用いることで伝統的資産との相関を低く抑えています。伝統的資産と低相関であるため、分散投資の観点から他の金融商品と組み合わせて投資を行うことで、投資家の金融資産全体のリスク・リターン向上が期待されます。また、ロング・ショート手法を活用することで、同様の運用戦略のシミュレーション期間を含む過去の運用実績^{*}では、金融市場の下落局面でも強さを発揮し、様々な市場局面において安定的な投資成果をあげてきました。

HSBC投信は、今後もお客様のご要望に応じた投資信託やサービスをご提供して参ります。

^{*}詳細は、3、4ページに掲載の当戦略と主要資産クラスのパフォーマンス推移および年間騰落率をご参照ください。

ファンドの特色

1. 絶対収益の追求

- 市場動向に左右されにくい絶対収益を追求し、円ベースで長期的に安定した収益獲得を目指します
- 資産の買建て(ロング)および売建て(ショート)を用いるロング・ショート手法を活用します

2. 3つの資産クラスへ分散投資

- 世界の株式、債券、通貨の指数先物などへ分散投資を行います
- バリュウ、モメンタム、キャリーの3つの市場収益特性(スタイルファクター)に注目し、一定のルールに基づきポートフォリオを構築します

3. 様々な資産クラスと低相関

- 伝統的な資産クラスと低相関となるよう運用を行います
- 当ファンドと様々な資産クラスを組み合わせることで、リスク・リターン向上が期待されます。つまり、“マルチ”な資産を“アシスト”します

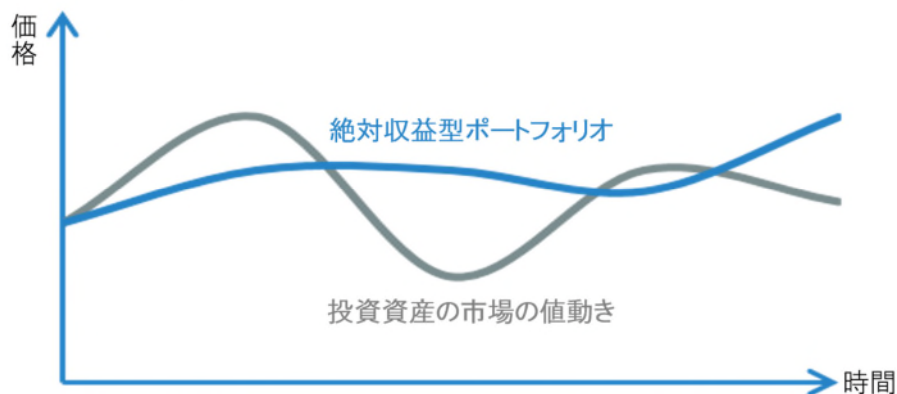
市場動向やファンドの資金動向等によっては、上記のような運用ができないことがあります。

ポイント1 絶対収益の追求

- 市場動向に左右されにくい収益（絶対収益）を追求し、円ベースで長期的に安定した収益獲得を目指します。
- 絶対収益を獲得するために、ロング・ショート手法を活用します。

絶対収益の追求：市場の上昇・下落に関わらず、収益の獲得を目指します。

絶対収益型ポートフォリオのイメージ

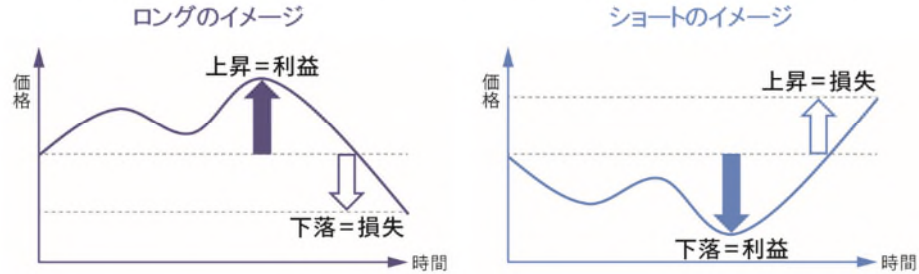


※絶対収益とは、必ずしも収益を得ることができるということを意味するものではありません。

ロング・ショート手法の活用：投資妙味が高い資産の買建て（ロング）と、投資妙味が低い資産の売建て（ショート）を組み合わせるロング・ショート手法を活用し、様々な市場局面における収益の獲得を目指します。

ロング・ショート手法を活用したイメージ

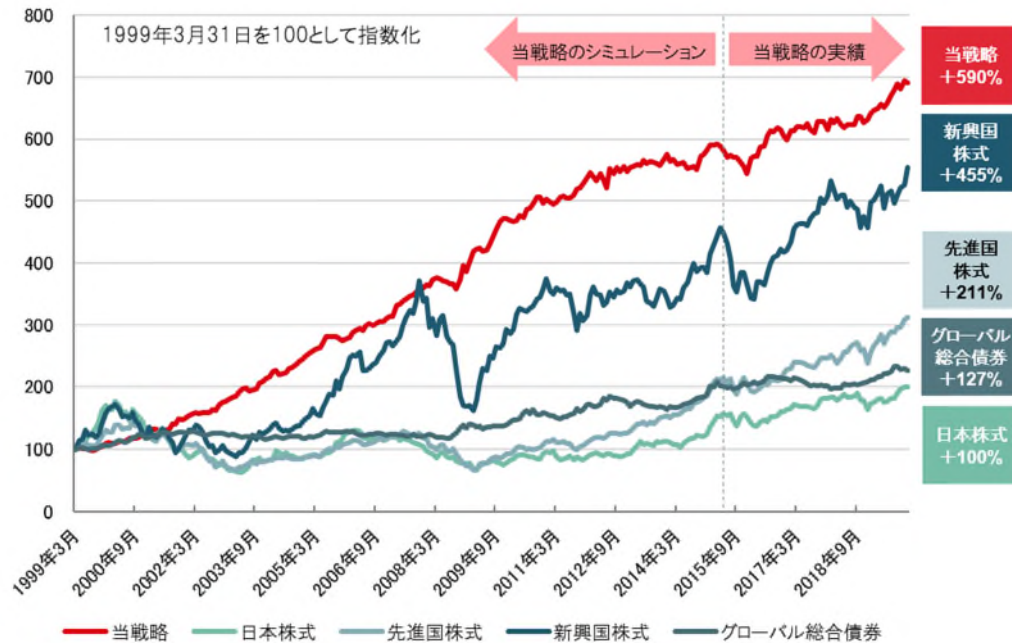
ロングした資産が上昇し、ショートした資産が下落した場合、両方から利益を得ることができます。ただし、資産が逆に動いた場合、大きな損失を被る可能性があります。



※ 上記はロング・ショート手法をご理解いただくための簡易化したイメージをお示したものであり、ロング・ショート手法を用いた運用結果すべてについて説明しているものではありません。ロング・ショート手法の収益は、ロングおよびショートの損益の合計となります。また、実際の運用とは異なります。

【ご参考】 当戦略と主要資産クラスのパフォーマンス推移

(ユーロベース、1999年3月末～2019年12月末、月次)



【ご参考】 当戦略と主要資産クラスの年間騰落率

(ユーロベース、1999年3月末～2019年12月末、月次)

	当戦略	日本株式	先進国株式	新興国株式	グローバル総合債券
1999年	8.7%	69.6%	29.9%	59.1%	5.9%
2000年	17.6%	-28.3%	-6.8%	-25.7%	10.2%
2001年	17.8%	-24.7%	-11.9%	3.0%	7.1%
2002年	17.1%	-22.9%	-31.8%	-20.3%	-1.1%
2003年	20.5%	15.8%	11.8%	30.7%	-6.4%
2004年	17.6%	6.3%	6.8%	16.7%	1.4%
2005年	11.1%	46.2%	26.0%	54.1%	10.1%
2006年	11.5%	-8.4%	8.2%	18.9%	-4.6%
2007年	17.9%	-15.9%	-0.9%	26.5%	-1.3%
2008年	5.6%	-22.7%	-37.6%	-51.1%	10.2%
2009年	22.5%	3.6%	27.3%	74.3%	3.6%
2010年	6.5%	23.4%	20.4%	27.8%	12.9%
2011年	7.0%	-9.8%	-2.0%	-15.6%	9.2%
2012年	1.8%	6.0%	14.4%	16.5%	2.7%
2013年	5.3%	21.2%	21.9%	-6.5%	-6.8%
2014年	1.1%	10.1%	20.2%	11.9%	14.5%
2015年	-6.5%	23.7%	11.0%	-4.9%	7.9%
2016年	10.0%	7.3%	11.4%	15.0%	5.1%
2017年	2.7%	11.1%	8.0%	20.9%	-5.7%
2018年	2.8%	-10.0%	-3.6%	-10.0%	3.8%
2019年	9.3%	22.2%	31.0%	21.2%	8.8%

※1999年は1999年3月末から1999年12月末までの騰落率です。

- ※ 当戦略は当ファンドと同一の運用手法を用いたファンドおよび口座で構成されるコンポジットの月次リターン（ユーロベース）を用いています。信託報酬等の費用および税金は考慮していません。1999年3月31日～2015年4月28日まではシミュレーション、それ以降は実績を用いています。詳細については、「当戦略について」をご参照ください。日本株式：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）、先進国株式：MSCI ワールド指数（配当込み）、新興国株式：MSCI エマージング・マーケット指数（配当込み）、グローバル総合債券：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合指数

- ※ 上記は過去のデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

出所：HSBC グローバル・アセット・マネジメント（フランス）、ブルームバーグのデータをもとに HSBC 投信が作成

ポイント2 3つの資産クラスへ分散投資

- 世界の株式、債券、通貨へ分散投資を行います。
- 運用において有効だと考える3つの市場収益特性（スタイルファクター）に注目し、長期的に安定した収益獲得を目指します。

3つの資産クラスと3つの市場収益特性(スタイルファクター)を掛け合わせ、9つの「スタイル・ポートフォリオ」を構築

市場収益特性 (スタイルファクター)		資産クラス		
		株式 世界主要国の 株価指数先物	債券 先進国の 10年国債先物など	通貨 先進国および新興国通貨 の為替取引など
バリュースタイル 割安 本質的価値に対して割安な資産は、割高な資産よりも収益性が高い		株式×バリュースタイル	債券×バリュースタイル	通貨×バリュースタイル
モメンタムスタイル 勢い 価格が上昇基調にある資産は上昇が継続し、下落基調にある資産は下落が継続する		株式×モメンタム	債券×モメンタム	通貨×モメンタム
キャリートリート 利回り 利回りが低い資産よりも利回りが高い資産が選好される		株式×キャリートリート	債券×キャリートリート	通貨×キャリートリート

※ 上記は資料作成時点のものであり、今後変更される可能性があります。また、市場動向やファンドの資金動向等によっては、上記のような運用ができないことがあります。

ポイント3 様々な資産クラスと低相関

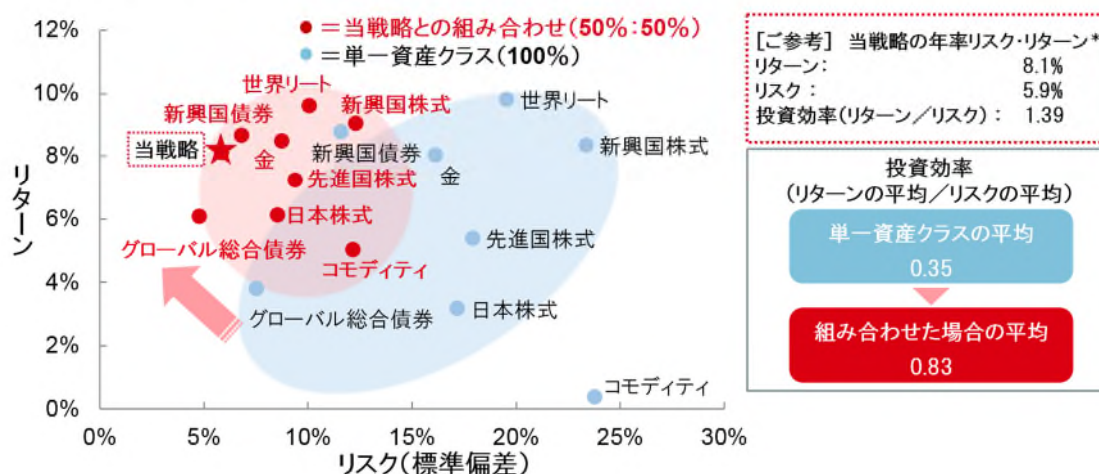
- 当戦略は、主要資産クラスとの相関がゼロに近く、幅広い資産との組み合わせにより分散効果を発揮することが期待されます。
- 当戦略と主要資産クラスを組み合わせたシミュレーションは、単一資産クラスと比較して、リスク・リターンが大きく改善しました。

【ご参考】 当戦略と主要資産クラスとの相関係数

(円ベース、1999年3月末～2019年12月末、月次)

当戦略									
日本株式	-0.18	1							
先進国株式	-0.01	0.74	1						
新興国株式	0.09	0.67	0.86	1					
世界リート	-0.05	0.53	0.75	0.67	1				
グローバル総合債券	0.01	0.41	0.62	0.52	0.63	1			
新興国債券	0.12	0.53	0.74	0.71	0.69	0.82	1		
コモディティ	-0.02	0.43	0.52	0.51	0.36	0.46	0.44	1	
金	0.06	0.13	0.21	0.30	0.22	0.37	0.38	0.33	1
当戦略		日本株式	先進国株式	新興国株式	世界リート	グローバル総合債券	新興国債券	コモディティ	金

[ご参考] 当戦略と主要資産クラスを組み合わせた場合の年率リスク・リターン(円ベース、1999年3月末～2019年12月末、月次)



- ※ 当戦略は当ファンドと同一の運用手法を用いたファンドおよび口座で構成されるコンポジットの月次リターン（対円ヘッジ）を用いています。信託報酬等の費用および税金は考慮していません。1999年3月31日～2015年4月28日まではシミュレーション、それ以降は実績を用いています。詳細については、「当戦略について」をご参照ください。
- ※ 日本株式：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）、先進国株式：MSCI ワールド指数（配当込み）、新興国株式：MSCI エマージング・マーケット指数（配当込み）、世界リート：S&P グローバルリート指数（配当込み）、グローバル総合債券：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合指数、新興国債券：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド、コモディティ：S&P GSCI コモディティ指数、金：LBMA 午後金価格
- ※ リターンは月次リターンを年率換算（幾何平均）、リスクは月次リターンの標準偏差を年率換算しています。当戦略と各資産の組み合わせは、月次でリバランスしています。
- ※ 上記は過去のデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- * リスクおよびリターンは表示単位未満を四捨五入しているため、リターンをリスクで除した数値と投資効率が一致しない場合があります。

出所：HSBC グローバル・アセット・マネジメント（フランス）、ブルームバーグのデータをもとに HSBC 投信が作成

[当戦略について]

当戦略のパフォーマンスは、当ファンドと同一の運用手法を用いた「HSBC マルチアセット・スタイルファクターズ戦略」のコンポジットの月次リターン（ユーロベース）を用いています。コンポジットとは、同一の運用手法を用いたファンドおよび口座等を残高に応じて加重平均したものです。信託報酬等の費用および税金は考慮していません。1999年3月31日～2015年4月28日まではシミュレーション、それ以降は実績を用いています。シミュレーションは、当戦略の運用方針に従い投資対象資産の過去の価格推移に基づき試算したものです。なお、円ベースのパフォーマンスは、上述のコンポジットのリターンをもとにユーロの1ヶ月 EURIBOR（欧州銀行間取引金利）と円の1ヶ月 LIBOR（ロンドン銀行間取引金利）の金利差を為替ヘッジコスト/プレミアムとみなし、100%為替ヘッジ（ユーロ売り、円買いの為替取引）を行ったと仮定して試算したものです。過去のデータによるシミュレーションおよび実績は、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

注記：

HSBCホールディングス plc

HSBC グループの持株会社である HSBC ホールディングス plc は英国・ロンドンに本部を置いています。HSBC グループは、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ、中東、北アフリカにまたがる 64 の国と地域でお客様にサービスを提供し、2兆 7,150 億米ドル（2019 年 12 月末現在）の総資産を持つ、世界有数の金融グループです。

HSBC グローバル・アセット・マネジメント

HSBC 投資株式会社が属する HSBC グローバル・アセット・マネジメントは、個人・事業法人・機関投資家に投資ソリューションを提供する、HSBC グループにおける資産運用部門の総称です。HSBC グローバル・アセット・マネジメントは 25 の国と地域に拠点を持ち、それぞれのマーケットを深く理解している国際的なネットワークを活かして、お客様にグローバルな投資機会を提供しています。HSBC グローバル・アセット・マネジメント全体の運用資産は約 5,100 億米ドル（2019 年 12 月末現在）です。

当ファンドに関するご留意事項

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象としており、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により、基準価額が変動し損失が生じる可能性があります。従いまして、投資元本が保証されているものではありません。投資信託は、預金または保険契約ではなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。購入の申込みにあたりましては「投資信託説明書（交付目論見書）」および「契約締結前交付書面（目論見書補完書面等）」を販売会社からお受け取りの上、十分にその内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

当ファンドの主なリスク

投資信託は**元本保証のない金融商品**です。また、投資信託は**預貯金とは異なることにご注意ください**。当ファンドは、主に値動きのある有価証券を実質的な投資対象としますので、組入有価証券の価格変動あるいは外国為替の相場変動次第では、当ファンドの基準価額が下落し、投資者の皆さまの投資元本を割り込むことがあります。当ファンドの**運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します**。当ファンドの主なリスクには、①価格変動リスク、②株価変動リスク、③金利変動リスク、④信用リスク、⑤デリバティブ取引のリスク、⑥為替変動リスク等があります。ただし、基準価額の変動要因は、これらに限定されるものではありません。

当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	購入時にご負担いただきます。 購入金額に、 3.30%（税抜 3.00%） を上限として、販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。	
信託財産留保額	ありません。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 （信託報酬）	年 0.858% （税抜年 0.78%）	ファンドの日々の純資産総額に信託報酬率を乗じて得た額とします。ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の 6 ヶ月終了日、毎計算期末または信託終了のとき、ファンドから支払われます。
（委託会社）	年 0.10%	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	年 0.65%	分配金・換金代金の支払い、運用報告書等の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	年 0.03%	運用財産の管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
投資対象とする投資信託証券	年 0.55%程度	投資対象とする投資信託証券の実質投資比率を勘案した運用管理費用
実質的な負担	年 1.408% （税抜年 1.33%）程度	投資対象とする投資信託証券の運用管理費用を加味して、投資者が実質的に負担する運用管理費用について算出したものです。
その他費用・手数料	ファンドの保有期間中、その都度ファンドから支払われます。 <ul style="list-style-type: none">有価証券売買委託手数料／保管銀行等に支払う外貨建資産の保管費用／信託財産に関する租税、信託事務処理に要する費用等振替制度にかかる費用／印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出にかかる費用／監査法人等に支払う監査報酬等 （純資産総額に対し上限年 0.20%として日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の 6 ヶ月終了日、毎計算期末または信託終了のとき、ファンドから支払われます。）投資先投資信託証券における売買にかかる手数料、租税、カストディーフィー、監査報酬等 その他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率等を記載することができません。	

※ ファンドの費用の総額については、投資者のファンドの保有期間に応じて異なるため、表記できません。

<当資料のお取扱いにおけるご注意事項>

当資料は、HSBC 投信株式会社（以下、当社）が情報提供を行う目的で作成したものであり、法令に基づく開示資料ではありません。当資料は信頼に足ると判断する情報に基づき作成していますが、その正確性を保証するものではありません。また、当社は、当資料に含まれている情報について更新する義務を一切負いません。

以上

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 308 号

加入協会：一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／日本証券業協会